

2020年度 事業報告書

事業名

盲導犬事業 〈公1〉

社会適応推進事業 〈公2〉

管理部門 〈法人会計〉

自：2020年 4月 1日

至：2021年 3月31日

公益財団法人北海道盲導犬協会

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

盲導犬事業 〈公益目的事業1〉

(2020年4月1日 ～ 2021年3月31日)

■ 盲導犬の育成・貸与事業

1. 盲導犬訓練・貸与に関すること

1) 盲導犬貸与目標11頭に対して10頭を貸与した。

- ・新型コロナウイルス感染症のため共同訓練を計画より2か月遅れて開始し、感染予防のため入所期間を短縮し在宅訓練を主体として共同訓練を実施した。

- ・貸与地域：道内6頭、道外4頭（新潟県・岩手県・神奈川県・福井県）

- ・盲導犬実働数77頭（年度末時点・前年比－2頭）

2) 2020年度の訓練犬25頭に対して、18頭が盲導犬の作業における訓練基準認定目標を達成した。その中から、健康面や日常生活面等の状況を踏まえて2021年度の盲導犬申込者にマッチングする。

3) 盲導犬ユーザーのサポート体制を安心・安全の観点から強化するため、次の事項に取り組んだ。

- ・共同訓練の現地訓練中に10ケースのインターネット会議を行い、ユニットの卒業にむけて指導員間で意見交換を行った。

- ・盲導犬のハーネス（胴輪）の耐久性と盲導犬啓発効果の向上を目的として、ハーネス改良を行った。盲導犬ユーザーのプライバシー保護のため作成した新しい啓発表示については、サンプル品を試用したユーザーからその効果を実感する声を聞いており、また他の盲導犬育成施設にも影響を与え同じような取り組みを始めた施設もある。2021年度には啓発表示を完成させる。

- 4) 訓練士・指導員の養成カリキュラムについて、既存のものを基本とし現状に合った見直しを検討した。次年度は、運用に向けてカリキュラムを完成し他の部署と連携して養成するシステムを構築する。

2. 繁殖に関すること

- 1) 出産頭数は60～75頭（出産件数15腹前後）の計画に対して72頭であった。

出産件数	出産頭数	委託頭数	譲渡頭数	譲受頭数
13腹	72頭	55頭	19頭	2頭

- ・ 出産頭数は死産や出産後死亡犬、育仔中にCCとなった犬を除く
- ・ $72(\text{出産}) - 19(\text{他施設譲渡}) + 2(\text{他施設譲受}) = 55(\text{委託})$
- ・ 他施設への譲渡は、子返しや繁殖協力のため実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症のため、これまでは飼育ボランティア宅で行っていた犬の出産を、協会で実施するという方法をとった（10ケース分）。

- 2) 繁殖犬として新たにラブラドル6頭（オス2、メス4）を確保して、繁殖犬の質の維持・向上に努めた。

- ・ 現繁殖犬数 オス 16頭 メス 33頭
- ・ 引退繁殖犬 オス2頭 メス28頭

- 3) アジアガイドドッグスブリーディングネットワーク（略称：AGBN）のGD-Bartテストに積極的に取組み、AGBNが目指すアジア地域全体の盲導犬の育種改良に協力した。

- ・ パピー犬54頭に対してGD-Bartテストを実施した。その結果のデータはAGBNに提供する。

- 4) 繁殖犬飼育委託ボランティアに向けて、年間繁殖計画および、繁殖犬飼育委託体制についての理解促進を図った。

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、資料を配布する方法で理解促進を図っ

た。

5) 繁殖実務担当者を養成する。

- ・今春採用した職員にスーパーバイザー指導のもと14頭の交配・出産・育児の見学・実習を行った。※2-(1)実務実績の表との差異は死産を含めている為である。

3. パピーウォーキングに関すること

1) 2021年度訓練犬・繁殖犬適性評価対象となる子犬を55頭委託した。

- ・2-(1)実務実績の表による。
- ・2019年度に委託したパピー55頭の委託を終了し、適性評価を実施した。

委託終了	訓練導入	繁殖犬	キャリア チェンジ
55頭	22頭	6頭	27頭

- ・委託終了式の形態について、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、新しいスタイルで実施している。

2) パピーウォーカーを対象とした飼育講習会を実施した。

- ・新型コロナウイルス感染症のため、講習会や家庭訪問の実施回数は、計画に対して半分以下の回数に留まった。
- ・パピー講習会、委託式 34回実施
- ・家庭訪問 197回実施

3) アクティブラーニングを取り入れて飼育講習会の内容を更に充実させるよう努めた。

- ・講習会内容やしつけ方法について、動画にしてYouTubeにアップロードし、飼育委託ボランティアが必要に応じて繰り返し学習できるシステム作りを

行った（配信動画数15本）。

4. ケネル・老犬ホームに関すること

1) 老犬飼育委託家庭への定期訪問や老犬来所の機会に犬の健康状態を把握し、高齡犬の飼育環境を整えるアドバイスに繋げた。

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、家庭訪問は新規委託と病犬及び高齡犬に限定し、その他は電話・来所による対応とした。

- ・老犬管理頭数 老犬ホーム3頭 飼育委託69頭 計72頭（年度末）

2) キャンペーン犬の飼育環境を充実させると共に、PR活動に役立つ対応を行った。

- ・新型コロナウイルス感染症により4月以降のイベントが中止となり啓発活動の機会が減少したため、キャンペーン犬の短期飼育委託を進めた。

- ・キャンペーン犬5頭のうち、2頭を引退とし、1頭を新たに加えた。キャンペーン犬頭数は5頭としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により啓発活動の機会が減少しているため4頭とした。

期首頭数	期中引退	期中加入	期末頭数
5頭	2頭	1頭	4頭

3) 犬舎作業ボランティアを充実させ、清潔な犬舎環境を保った。

- ・新型コロナウイルス感染症のため5月まで犬舎作業ボランティア活動を休止とし、その間は職員に作業分担した。6月から活動を再開した。

4) 狂犬病予防接種・混合ワクチン接種・畜犬登録について、関係機関と連絡調整を図りながら新たな実施体制を作った。

- ・接種に関しては、北海道獣医師会、札幌市小動物獣医師会のご協力の元、新たな体制の中、新型コロナウイルス感染症に留意しながらスムーズに実

施することができた。

・畜犬登録は、年間を通して手続きが必要となるため、担当者との打ち合わせを行い、対応できるよう周知した。

5) 夜間宿直専任者を下期に1名増員し、研修を経て、ローテーションに組み込んだ。

5. 研修に関すること

1) 新型コロナウイルス感染症のためIGDF国際セミナーや視覚障害リハビリテーション基礎講習会等当初計画の多くは中止になったが、盲導犬育成ジャパンセミナーはリモート開催となり希望者全員を参加させることができた。

2) 指導員の指導力レベルアップを図るため、ケース会議・ケース発表による事例研究を行った。他施設の訓練見学は見送った。

3) 犬の取扱いや訓練技術の向上などを目的として、老犬ケネル担当職員1名・繁殖パピー担当職員1名に対して盲導犬訓練研修を実施した。

4) 自己啓発運用内規の周知により利用職員が前年比8名増加した。

・2/8 犬の行動学に関するオンラインセミナー 2名参加

・2/21 犬の行動学に関するオンラインセミナー 6名参加

・3/27 ペットの救助法に関する講習会 1名参加

6. 犬具飼料等の頒布に関すること

1) 盲導犬ユーザー、飼育委託ボランティアが購入する犬具・飼料について、仕入れにより標準価格の7割程度で頒布して、費用負担の軽減を図った。

・取扱数 飼料29件 犬具313件

2) 盲導犬ユーザー、生活訓練受講生を中心に歩行補助具・日常生活用具等の

情報提供及び頒布を行い日常生活をサポートした。

- ・取扱数 用具24件

■ 普及啓発事業

1. 盲導犬の普及啓発に関すること

- 1) 新型コロナウイルス感染症のため盲導犬宿泊体験セミナーは中止したが、希望する視覚障がい者には訪問による盲導犬歩行体験を実施し盲導犬希望者の顕在化に努めた。
- 2) 教育機関、福祉事業者、自治体等が実施する盲導犬講習会に講師派遣協力を行い、盲導犬と視覚障害に関する普及啓発を推進した。
 - ・実績26件（幼稚園3・小学校8・中学校7・高校4・専門学校3・大学1）
うち専門学校のオンライン見学実習1件、過去3年程度訪問していない地域の実施5件（留寿都村・石狩市浜益区・小樽市銭函・伊達市・赤平市）
- 3) 北海道運輸局と連携し、余市観光協会会員、後志管内の市町村役場を対象に「盲導犬受け入れ啓発ワークショップ」の開催準備を行ったが、新型コロナウイルス感染症集中対策期間延長の為中止となった。
- 4) 移動支援従事者や同行援護従事者を対象としたフォローアップ研修は、新型コロナウイルス感染症のため同行援護従事者の研修自体が開催されず実施できなかった。次年度開催へ向けて開催内容や形態などを検討していく。
- 5) 関係団体、商業施設、支援企業等の協力を得て盲導犬啓発キャンペーン活動を実施した。
 - ・サッポロさとらんど他21ヶ所で啓発活動を実施した。
 - ・新型コロナウイルス感染症のため北海道日本ハムファイターズダンロップDAY、北海道コンサドーレ札幌ホームゲーム、動物愛護週間イベント等52

件の啓発活動が中止となった。

6) ガイドドッグオーブンデー、創立50周年記念事業啓発イベント、個人を対象とした施設見学会は、新型コロナウイルス感染症のため今年度の開催を中止した。

7) 盲導犬の普及啓発目的のオリジナル商品を製作・頒布して、理解と募金への協力を繋げた。

- ・主に協会ホームページや広報誌ミーナを通じて普及啓発に努めた。

- ・頒布実績 239件

8) 広報誌「北の盲導犬だより ミーナ」を年2回各17000部発行した。

- ・2020年7月17日 第69号 17000部発行

- ・2021年1月18日 第70号 17000部発行

9) 対面活動に変わるコロナ禍の情報発信手段としてYouTube公式チャンネルを3月16日に開設し動画配信を開始した。

■ 調査研究事業

1. 調査・研究に関すること

1) 帯広畜産大学との効率的育成技術の共同研究である受精卵移植技術の確立を目指して、4頭分の受精卵提供を行った。

2) A G B Nの盲導犬改良システムの構築研究事業に協力した。

- ・育成事業2－(3)参照

■ その他事業

1. 財源確保に関すること

1) 支援者との接点やお礼について、個別訪問から電話に代えて継続支援に繋

げた。

- ・ 寄付者数2,105件、延べ寄付件数3,213件
- ・ ミーナ入金件数4,330件
- ・ サポート入金会員数1,984件、延べ入金件数5,176件

2) サポート会員への更新案内状に活動報告、イベント情報を掲載した盲導犬協会通信を同封して、継続支援に繋げた。

- ・ 盲導犬協会通信 4 回発行

4月1日春号 特集 老犬ホームの一日・訓練犬の一日

7月1日夏号 特集 盲導犬訓練士に同行・繁殖犬出産

10月1日秋号 特集 盲導犬共同訓練密着

1月1日冬号 特集 GD-Bartテスト・冬の老犬ホーム

3) サポート会員の新規会員目標数200名（社）に対して、243名の申込みを受付けた。

- ・ 新聞、テレビなどの取材が協会ホームページ寄付サイトの閲覧に繋がり新規会員増加の要因になった。

- ・ 新規会員構成：マンスリー36名・Jr 16名・子犬24名・老犬101名

盲導犬62名・法人老犬3社・法人盲導犬1社

4) 募金箱の新規設置目標を200ヵ所として設置先の開拓と営業に取り組み、170ヵ所への新規設置を行った。

- ・ 新規設置店170件（札幌市93件・道内65件・道外12件）

- ・ 除台数241店

- ・ 総設置箇所6,507件（札幌市3,357件・道内2,654件・道外496件）

5) 募金箱の定期訪問回収と設置者への送金依頼、設置状況の確認を行う等、

募金箱の管理を適切に行った。

- ・札幌市内は訪問、市外は文書により行った。

6) 街頭募金は新型コロナウイルス感染症のため全日程中止した。

(令和2年2月28日街頭募金より中止)

7) キャッシュレス決済の普及を見据えて、国内のキャッシュレス決済普及状況の情報収集と募金箱収入実績への影響について評価した。

2. 関連団体との協力連携に関すること

・新型コロナウイルス感染症により関連団体との協力・連携事業が中止又は延期される中、リモート会議などにより情報共有を図った。

- ・札幌市小動物獣医師会の依頼により、犬輸血用の血液提供に協力した。

(19回分)

社会適応推進事業 〈公益目的事業2〉

(2020年4月1日 ～ 2021年3月31日)

1. 生活訓練の実施に関すること

- 1) 短期入所訓練は、目標8回開講、15ケース受入れに対して、実績9回、9ケースとなった。開講数増加要因は感染症対策のため入所期間を2週間以内に短縮したことによる。またケース数減少要因は感染症対策のため1開講の受入れ数を1名に制限したためである。
- 2) 新規受入れ数は目標5名に対して、6名希望があり、そのうち4名を受入れることができた。2名は次年度の待機者とした。
- 3) 「生活訓練（入所・通所・訪問）における新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」を策定し、感染防止に努めながら実施した。
- 4) ケース会議は、全ての入所訓練に対して行い、訓練達成度の評価及び今後の対応についての確認を行った。

実績表	訓練日程	訓練期間	受入人数				計	
			札幌市内		道内			
			新規	継続	新規	継続		
上半期	1	3月30日～4月17日	3週間				1	1
	2	6月22日～6月26日	1週間			1		1
	3	7月6日～7月17日	2週間				1	1
	4	7月27日～8月1日	1週間			1		1
	5	9月4日～9月10日	1週間			1		1
	6	9月28日～10月9日	2週間		1			1
下半期	7	10月19日～10月30日	2週間	1				1
	8	11月9日～11月20日	2週間				1	1
	9	3月8日～3月19日	2週間				1	1
			合計	1	1	3	4	9

- 5) 訪問による指導は、目標月平均5ケースに対し、訓練希望者が多く月平均5.

5ケースの対応となった。

- ・ 訪問訓練実績 : 前期継続3名/新規開始5名/訓練終了3名/次期継続5名
- ・ 通所訓練実績 : 未実施
- ・ 指導員別内数 : S指導員2名、K指導員3名

6) 通所・訪問指導に対するケース会議を4回開催し、訓練生の状況確認と今後の訓練計画の決定を行った。

7) 短期入所訓練の新規訓練受講者から1名の盲導犬申込みがあった。

8) 新型コロナウイルス感染症のため協会に入所しての訓練が難しい方には電話等での相談対応を重点的に行った。その他、用具に関する事、福祉制度や訓練全般に関する問い合わせが多く、相談件数は平年を上回った。

2. 視覚障害リハビリテーションの普及啓発に関すること

1) 道内の視覚障がい者並びに関係者に対して、当協会の生活訓練事業を啓発するため、相談セミナーを過去3年間に実施していない地域の中から北見市・小樽市を選定して開催を計画したが、新型コロナウイルス感染症のため中止した。次年度開催へ向けて北見、小樽の関係団体とは定期的に連絡を行い、関係強化の取り組みを行った。

2) 道内3会場ある「ロービジョンケアの集まり」に参加して、盲導犬歩行・生活訓練に関する情報提供を行い、盲導犬使用希望者、生活訓練受講希望者の顕在化に取り組んだ。

- ・ 「ロービジョンケアの集まり」は、現在、ロービジョンケア北海道（札幌市）・ロービジョンケア旭川（旭川市）・ロービジョンケア十勝（帯広市）がある。今年度はロービジョンケア北海道に1回、ロービジョンケア旭川

に3回（うち2回オンライン参加）、ロービジョンケア十勝に3回参加した。

新型コロナウイルス感染症のため開催中止が多く参加回数は少なかったが、参加者の訓練希望や問い合わせに繋がっている。

- 3) 札幌市視聴覚障がい者情報センター、道視連、札幌協等、関係団体の行事は新型コロナウイルス感染症のため中止となり参加できなかったが、用具・訓練に関する相談対応、情報共有等により、連携強化に取り組んだ。
- 4) 北海道眼科医会と共同で「教育・体験セミナー」の開催を計画したが（予定日7月18日）、新型コロナウイルス感染症のため、今年度の開催は中止した。次年度開催に向けて関係団体への連絡調整を進めた。
- 5) 視覚障害リハビリテーション普及啓発の取り組みとして、ロービジョンケアを実施する医療機関を中心に日常生活用具展示会及び相談会を計画したが、新型コロナウイルス感染症のため延期が続き、今年度は開催できなかった。次年度開催に向けた関係者との連絡調整の他、感染症対策、配布資料改訂に着手した。
- 6) 生活訓練受講者に協会行事や訓練・日常生活用具等の最新情報を発信し、再受講の機会とする取り組みは、新型コロナウイルス感染症に対応した訓練体制の整備並びに訓練日程の調整を優先したため未実施。

管理部門 <法人会計>

(2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)

1. 理事会・評議員会・三役会により、効果的に法人業務の意思決定等を行った

1) 理事会の開催状況

第37回理事会 6月8日 第39回理事会 3月3日

第38回理事会 11月12日

・3月31日現在 理事10名・監事2名

2) 評議員会の開催状況

第23回評議員会 6月24日 第24回評議員会 3月18日

・評議員1名の辞任届(12月10日付)を受理

・3月31日現在 評議員9名

3) 三役会、経営会議の開催状況

第1回経営会議 4月17日 第7回経営会議 10月27日

第2回経営会議 5月26日 第8回経営会議 11月12日

第3回経営会議 6月24日 第9回経営会議 12月23日

第4回経営会議 7月28日 第10回経営会議 1月26日

第5回経営会議 8月27日 第11回経営会議 2月19日

第6回経営会議 9月29日 第12回経営会議 3月29日

2. 創立50周年記念事業実行委員会を組織して記念事業を進めた

第37回理事会、第23回評議員会において当協会創立50周年記念式典及び関連記念事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止と出席者の健康と安全が最優先であると判断し延期することを決議した。記念式典については2021年10

月下旬の開催を計画した。

3. 防災対策及び犬舎の暑さ対策を段階的に進めた

- ・ 犬舎及び老犬ホームの暑さ対策としてトップライトに遮熱フィルムを施工した。また参考資料とするためエアコン設置費用を積算した。
- ・ 災害時の緊急連絡網を整備した。
- ・ 災害停電時に必要な電力を確保するため、プロパンガスによるガス発電機を整備した。

4. 人事異動

- ・ 事務部嘱託職員1名任期満了により退職
- ・ 事務部パート職員（経理・総務）2名採用
- ・ 夜間宿直専任者1名採用

5. その他、新型コロナウイルス感染症予防対策として三役会・経営会議において次のことを協議・決定した

- ・ 緊急事態宣言発出中の在宅勤務制度の導入
- ・ 公共交通機関を利用して通勤している職員を対象とした時差出勤制度及び通勤時の協会車両貸与制度の導入
- ・ 当協会における新型コロナウイルス感染防止ガイドラインの策定
- ・ 共同訓練のための新型コロナウイルス感染予防ガイドラインの策定
- ・ 生活訓練のための新型コロナウイルス感染予防ガイドラインの策定
- ・ 協会主催行事及び外部講師・イベント参加依頼に対する対応基準の策定
- ・ 職員に対する不織布マスクの支給制度の導入
- ・ 第1・第2応接室に機械換気を新規導入した。

- ・第1応接室、食堂にアクリルパーテーションを設置した。

6. 施設に関すること

1) 施設所在地

北海道札幌市南区南30条西8丁目1-1

2) 施設の状況（敷地面積や建物の状況）

敷地面積 3306m²

本 棟 (構造等) 耐火造地上3階 床面積442.16m² 延べ面積1100.88m²

(主設備) 事務室・食堂・厨房・入所生室5・生活訓練室2

相談室1・浴室男女・手入れ室・ホール

訓練棟 (構造等) 耐火造地上一部3階

床面積985.07m² 延べ面積1432.18m²

(主設備) 指導員室・調理室・老犬ホーム・訓練犬室・治療室

犬の浴室・交配室・隔離室・研修室・ボランティア室

3) 職員の在籍状況

		常勤	パート	非常勤	備考
	所 長	1			
事務部	渉外・庶務	1			
	総務・普及	3	1		
	経 理	2	2		
指導部	生活訓練	2			白杖指導員1人、生活指導員1人
	繁殖・ハッピー	3	1	1	非常勤者は実働月4日
	盲導犬訓練	6	1		指導員4人、訓練士2人、研修生1人
	老犬ケネル	2	4	4	非常勤者は夜間宿直業務実働月8日
	施設管理	1			
		21	9	5	

4) 盲導犬歩行指導員等の資格保有状況

	男	女	備考
盲導犬歩行指導員	4	2	
盲導犬訓練士	2		
白杖歩行指導員	2	2	
生活訓練指導員	1	1	
	9	5	

※他業務に従事している者
を含む。